

6年2組 音楽科学習指導案

平成30年10月23日(火) 13:05～
 場所：第1音楽室 (南舎3階)
 授業者：大嶽 利佳

- (1) **ねらい** 音楽を聴いて身体表現をしたり、音楽の諸要素に着目して聴いたりする活動を通して、“速さ”や“強弱”の変化が曲想の移り変わりや密接に関わっていることに気づき、曲想の移り変わりを味わって鑑賞することができる。
- (2) **評価規準** 曲想の移り変わりの面白さを感じ取り、音楽の諸要素の変化に気づき、楽曲全体を通して味わって聴くことができる。【鑑賞の能力】
- (3) **評価方法** グループ交流や全体交流での様子、ワークシートの書き込みで見届ける。

1 題材名

『曲想を味わおう』

教材群

- 「広い空の下で」【歌唱】
- 「ハンガリー舞曲第5番」【鑑賞】
- 「風を切って」【器楽】

2 指導の立場

(1) 教材観

第5学年までに曲想の移り変わりの学習をし、「威風堂々」では、身体の動きを取り入れて曲想の変化を感じ取る学習をしている。第6学年では、さまざまな音楽の要素が関わり合って、曲想の変化を生み出していることに気づき、ふさわしい表現を工夫したり、楽曲の構造を理解して聴いたりする学習活動を仕組む。

「ハンガリー舞曲第5番」は、4つ主な旋律からなる三部形式の楽曲である。それぞれの部分の曲想をつかみ、それを生み出す音楽要素に着目して鑑賞することのできる楽曲である。本題材のねらいである曲想の変化を感じ取って聴き、曲想と音楽の要素や仕組みとの関連を考えながら聴く学習に適した楽曲である。

(2) 児童観

児童は、音楽を聴くだけでなく、自分の考えやグループで深まった意見を交流し、速度や強弱の変化がない場合との比較をし、さらに考えを深める。他のグループではそんなことに気付いたのか、自分もまねしたいな。たしかに強弱や速度の変化がある方が、曲の面白さが伝わるな。深めた考えをもとに、もう一度全体を通して聴く。自分たちで深めたことを考えて聴くと、はじめに聴いた時よりも面白く聴こえてくるぞ。

(3) 指導観

曲想を感じ取り、速度や強弱の変化が曲想の移り変わりを生み出していることに気付けるようにするために、音楽に合わせて身体を動かす活動を取り入れる。そして、個の考えを広げ、深めることができるように、グループ交流や全体交流を仕組み、考えを共有し、新たな発見ができるような活動を位置付ける。また、曲想の移り変わりや楽曲の良さを味わうために、全体交流の終わりに、曲全体を通して聴く活動を位置付ける。

3 本時の展開 (3/6)

	学習内容および学習活動	指導・援助 (★高め合うための指導・援助)
つ か む	<p>1 模範演奏を聴き、曲に合わせて身体表現をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとなめらかにスカーフを動かしてみよう。 ・細かく小さな指押にしてみよう。 ・さっきとおなじように激しく動いてみてもよさそうだな。 <p>○ 曲の特徴を感じ取り、身体の動かし方を変化させた理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ旋律が繰り返されているから同じ動きにしたよ。 ・曲の感じが変わったからスカーフの動きを変化させてみたよ。 ・速さや強弱が変わったから、それに合わせて指押をしてみたよ。 <p>2 課題の把握</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">曲の面白さの秘密を見つかけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本題材での学びや題材を通して付けたい力を確認し、本時の課題につなげる。 ・曲名から楽曲に対するイメージを膨らませ、楽曲への関心へつなげる。 ★身体表現を取り入れることで、体全体で音楽を感じ、曲想の変化に気付けるようにする。 ・身体を動かすことが苦手な児童には、仲間の動きを見て、真似をするのもよいことだと伝える。 <p><3つの見届ける－課題を見届ける></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を達成するために着目すべき音楽の要素が速さや強弱であることに気付いている児童を価値付け、発言等の様子を見届ける。
深 め る	<p>3 個人追究</p> <p>○ 曲想の移り変わりの面白さが、音楽のどの要素の変化と関係しているのかを考え、ワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくはイで、速さが急に変わったところが面白さの秘密だと思うな。 ・私はエの強弱の差が大きいところについて詳しく知りたいな。 <p>4 グループ交流 (3人グループ)</p> <p>○ 自分の考えを仲間へ伝え、実際に身体を動かすなどして確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくはイの所で、ゆっくりしたところから急に早くなるところが面白かったよ。みんなで聴いて確認してみよう。 <p>○ ホワイトボードに書き込みをしながら考えを深める。</p> <p>○ iPadで確認しながら考えを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たしかに今のところで強弱が変わったね。 ・ぼくも速さの変化に気付いたけど、他にも速さが変わるところがたくさんあったんだね。 <p>5 全体交流</p> <p>○ 自分の意見やグループで深まった意見を交流し、速度や強弱の変化がない場合との比較をし、さらに考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループではそんなことに気付いたのか、自分もまねしたいな。 ・たしかに強弱や速度の変化がある方が、曲の面白さが伝わるな。 <p>○ 深めた考えをもとに、もう一度全体を通して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで深めたことを考えて聴くと、はじめに聴いた時よりも面白く聴こえてくるぞ。 	<p><3つの見届ける－学習状況を見届ける></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じたことや、面白いなと思ったことを、音楽の要素と結び付けて聴くことができているかを見届ける。 ・自分の考えを書くことに困っている児童には、気に入った部分を見つけ、どんな感じがするかを書くことよいことを伝える。 ・実際に体を動かしてみることで、速度や強弱の変化を感じ取るように助言する。 ★ホワイトボードに書き込みをすることで仲間と考えを共有し、速さや強弱の移り変わりを視覚的に把握できるようにする。 ・iPadを用いて、自分が考えをもった部分を交流したり、必要に応じて自分たちの聴きたい部分から聴いたりできるようにする。 ★全体交流をすることで、さらに考えを深め、高め合う活動を仕組む。 ・強弱や速度の変化がある場合とない場合の演奏を、教師が提示することで、自分の考えに確信がもてるようにする。
ま と め る	<p>6 本時のまとめ</p> <p>○ 本時の学びを振り返る (個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この曲の面白さの秘密は、速さや強弱の変化にあることがわかったよ。 ・部分に分けて詳しく聴くといろいろな発見があって面白かったし、最後に全体を通して聴いたらもっと面白く聴こえたよ。 ・みんなと意見を交流したから、この曲の面白さがさらに分かったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ★グループ交流や全体交流で深めたことを含めて、自分の考えとしてまとめるように助言し、仲間との関わりがあったからこそ、学びの高まりが得られたことを価値付ける。 <p><3つの見届ける－定着状況を見届ける></p> <ul style="list-style-type: none"> ・速さや強弱の変化が曲想の移り変わりを支えていることを理解し、曲全体を味わいながら鑑賞できたかを見届ける。

4 研究内容との関わり

【研究内容Ⅰ】

②導入・課題化の工夫

題材の導入時に、本題材で学ぶことと終末で目指す姿を確認する。そのために各単位時間では何をすべきかを確認し、題材を貫く課題を児童と確かめながら授業を進める。また、本時では身体表現を取り入れ、身体全体で音楽を感じ取ることで、楽曲との出会いを大切に、学習意欲の向上につなげる。

【研究内容Ⅱ】

①関わりへの必然性を生むための工夫

曲を聴いて感じることは人それぞれであり、だからこそ自分の感じたことを仲間と伝え合うことで、お互いに見方・考え方が広がるという価値があることを伝える。そして、わからないことを仲間へ聞いた、考えを共有したりすることで、仲間と関わるよさを実感できるようにする。

③活動形態の工夫

まず、個で考える時間を確保し、自分の考えをプリントに記入させる。次のグループ交流では、ホワイトボードを用いることで各自の考えを視覚的に共有し、自分の考えとの共通点・相違点等に気付けるようにする。さらに、全体交流では、2種類の演奏を聴かせ、比較することで考えを深めたり、新たな発見をしたりすることができるようにする。そして最後に、本時の学びを生かして自分の考えをまとめることで、自らの高まりを実感できるようにする。このように、個から集団へ、そして再び個に戻すという活動形態の工夫が、より深い学びにつながると思えた。

【研究内容Ⅲ】

①評価の工夫 (自己評価力の育成)

題材を通して振り返りシートを用いることで、本題材では何を学んでいるのかを確認したり、付けたい力を振り返ったりすることができるようにする。また、自分が「できた、わかった」という達成感を味わうことができたのは、仲間との関わりがあったからだとすることに気付かせ、仲間と関わり合うよさを実感できるようにする。